

経済レポート

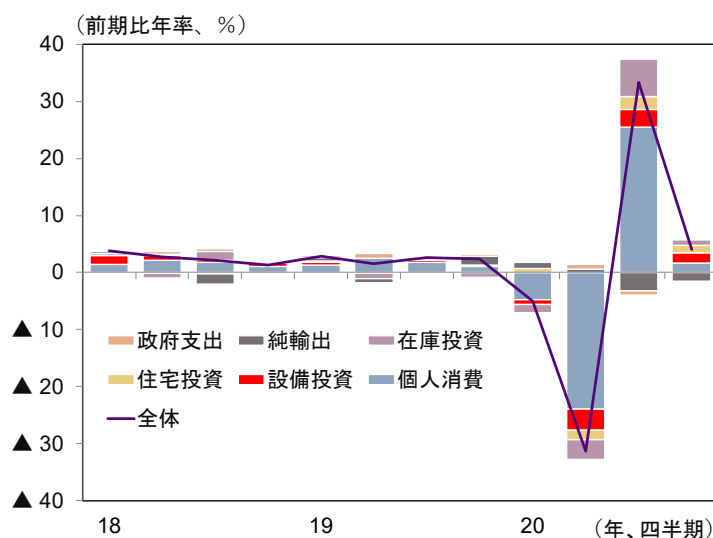
米国景気概況(2021年2月)

調査部 主任研究員 細尾 忠生

概況 ～ 景気の回復ペースは鈍化

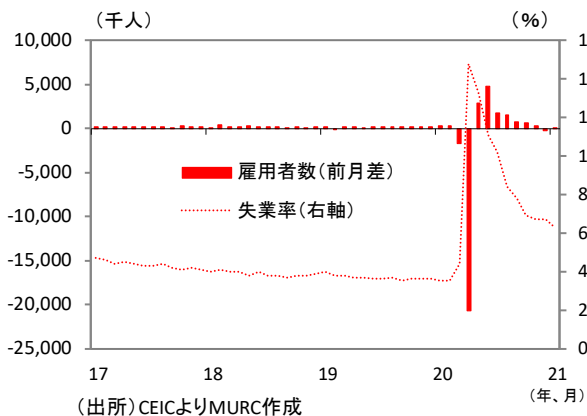
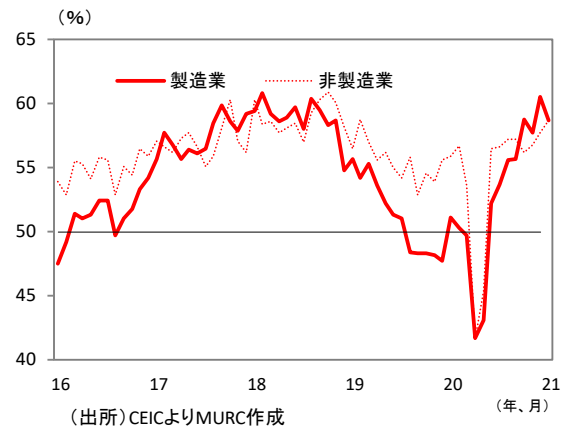
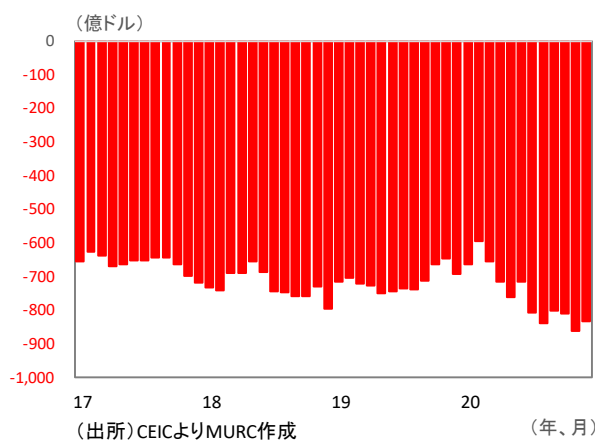
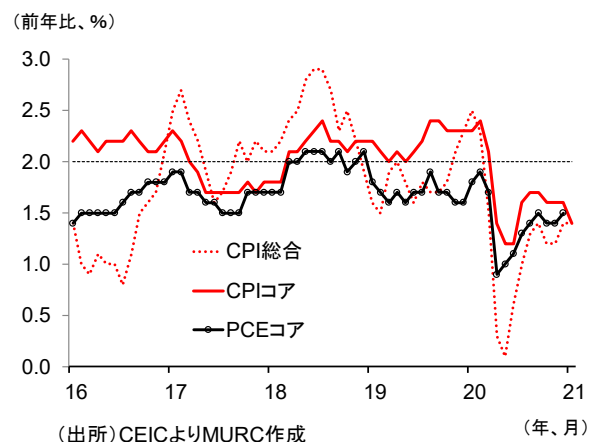
- 米国経済は持ち直しの動きが続くものの、回復ペースは鈍化した。昨年10-12月期の実質 GDP 成長率（速報値）は前期比年率+4.0%と、前期の高い伸びの反動や新型コロナウイルス感染再拡大の影響などにより低下した。内訳をみると、個人消費（同+2.5%）が大幅に鈍化し成長率を押し下げたが、設備投資（同+13.8%）、住宅投資（同+33.5%）は二桁の伸びが続いた。2020年暦年の成長率は▲3.5%と、2009年のリーマンショック以来のマイナス成長となった。
- 一方、今年1月分の経済指標は概ね底堅い内容が示されたものの、雇用関連指標の回復ペースは鈍い。先行き、追加経済対策の効果やワクチン接種の普及などにより、景気の回復ペースが加速する見通しである。
- 1月20日に就任したバイデン新大統領は、総額1.9兆ドルの追加経済対策の成立を目指している。支援策には個人への現金給付や失業手当拡充のほか、児童税額控除の拡大などが盛り込まれている。議会の審議を経て3月頃に成立する見込みである。

図表1：実質 GDP 成長率の推移（速報値）



【経済指標】

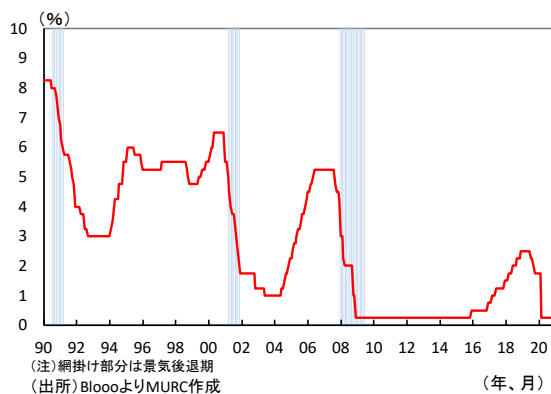
- ・ 雇用の回復ペースは鈍い。1月の非農業部門雇用者数は前月差+5万人と小幅な増加にとどまった。また、昨年12月分は、当初発表の▲14万人から▲23万人に下方修正された（図表2）。一方、失業率は6.3%と改善したが依然として高水準である。
- ・ 企業部門では、12月の鉱工業生産は前月比+1.6%増加した。コンピューター・電子部品などの生産増加が続いた。設備投資の先行指標である12月のコア資本財受注は同+0.7%増加した。企業の景況感を示す1月のISM景況感指数は、製造業、非製造業がいずれも58.7で、好不況の目安となる50の水準を上回った（図表3）。
- ・ 対外部門は、12月の財輸入は同+1.4%、財輸出は前月比+4.6%と増加し、貿易赤字（財）は▲832億ドルに縮小した（図表4）。国別にみると、最大の赤字国である対中国（▲281億ドル）や対日本（▲55億ドル）、対メキシコ（▲103億ドル）などの赤字幅が縮小した。
- ・ 物価指標のうち、FRBが重視するコアPCEデフレーター上昇率は、12月に前年比+1.5%と前月から小幅上昇した（図表5）。

図表 2. 雇用統計

図表 3 : ISM 景況感指数

図表4 貿易収支

図表5 消費者物価


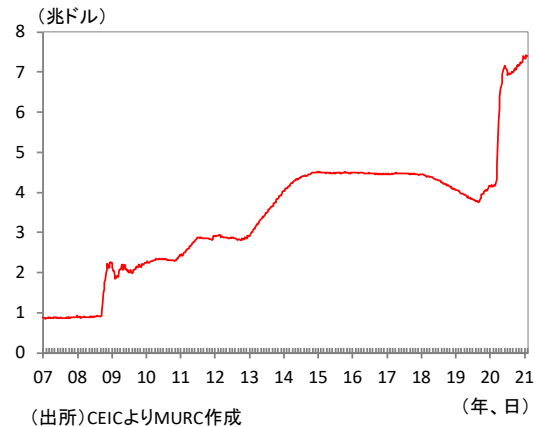
【金融政策・金融市場】

- FRBは、1月26日～27日に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）で、ゼロ金利政策と量的緩和策の継続を決定した（図表6、7）。会合後に公表された声明文では、新型コロナの感染再拡大により、「景気と雇用の回復ペースは、この数か月、緩やかになった」と指摘した。一方、先行きについては、「ワクチン接種の進展など新型コロナの感染動向次第」との認識を示した。
- 金融市場では、バイデン新政権による追加経済対策への期待などから株価は上昇し過去最高値を更新した（図表8）。一方、長期金利は景気回復期待や財政悪化懸念などから緩やかに上昇した。（図表9）。

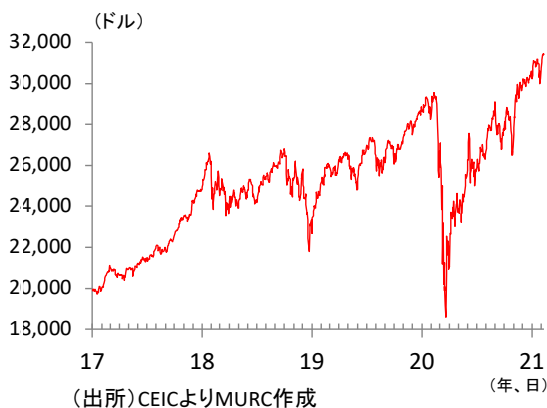
図表6：政策金利



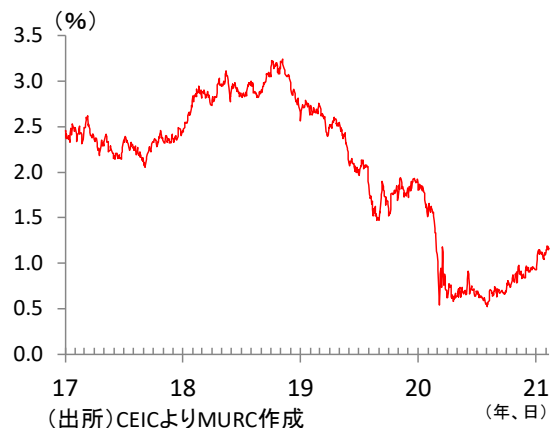
図表7：FRB総資産



図表8. ダウ平均株価



図表9：長期金利



ご利用に際して ー

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 E-mail:chosareport@murc.jp, 担当:細尾(03-6733-4925)